

所沢市子どもと福祉の未来館

所沢市子どもと福祉の未来館は、「思いやりの心で支え合う 幸せに暮らせるまち」を目指す、地域福祉の中心的な役割を担う拠点施設です。

1階には福祉の相談窓口や福祉ボランティア活動支援などを行う「地域福祉センター」を、2階には子育て支援や子どもの発達支援を行う「子ども支援センター」を設置し、3階には「所沢市社会福祉協議会」が入ります。これらが連携、協力しながら、地域福祉の推進を図ります。



1F / ガレリア (エントランスホール)



1F
世代間交流広場



所沢市子どもと福祉の未来館は、「思いやりの心で支え合う 幸せに暮らせるまち」を目指し、誕生しました。



2F / 交流施設 (ひろば)

施設を利用する方への配慮

バリアフリー新法をベースとし、ユニバーサルデザインの考え方に従い、すべての方が使いやすいように設計しています。

●意見要望を踏まえた設計

関係団体からのご意見やご要望を参考に、実際に使用する器具類を取り寄せて確認したり、民間企業の協力を得て現場を再現したりするなどの検証を行いました。

●トイレ

多目的トイレのほか、一般トイレでも車いすの方が利用できる広い間取りを採用しました。



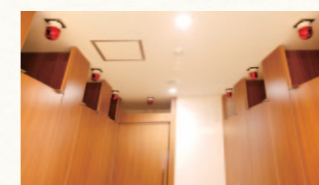
●エレベーター

外の様子が見えるように出入口にはガラス窓を設置し、車いすの方やベビーカーを利用される方が乗り降りしやすいようウォークスルー方式*を採用しました。



●各室の安全とプライバシー

音で周囲の異変を認識しづらい方のためにフラッシュライトを設置。一部の壁にガラスを採用することで非常事態の早期認識を高める一方、ロールカーテンでプライバシーを確保できるようにしました。



●万一の場合の備え

建築材には難燃材や不燃材を採用し、屋外には3か所の階段と避難用すべり台も設置しました。

環境への配慮

所沢市子どもと福祉の未来館では、「人と人、人と自然との絆」を大切にするため、環境に配慮しています。

●省エネルギー

- ※自然換気・自然採光の有効な取り入れ
- ※植栽の散水に雨水を利用
- ※複層断熱ガラスにより熱負荷を軽減
- ※30kWの太陽光発電を設け、自然エネルギーを活用



●緑化

- ※道路と接する部分は積極的に植栽
- ※屋上の緑化
- ※駐車場にも緑地帯を設置しヒートアイランド対策に貢献
- ※地域の方に親しまれている桜の木をできる限り活用した植栽



災害時の対策

東日本大震災での経験を踏まえ、支援を受け入れる体制整備の重要性に着目し、災害ボランティアセンターの運営がスムーズにできるように配慮して設計しています。

●災害ボランティアセンター

災害時には、建物の一部を災害ボランティアセンターとして機能させ、災害ボランティアの活動拠点として稼働します。



災害時キッチン(多目的室 1号)

●耐震性と持続性

耐震性に優れ軽微な亀裂等の一部の損傷があっても、補修することですぐ利用できる設計を採用しています。また、自家発電機のほか、飲料水を確保できる受水槽も設けています。

*ウォークスルー方式/エレベーターに車椅子などで乗り込んだ際、降りる時に前進して降りられるよう、出入口を前後に配置した形式のことをいいます。